

奈良県立医科大学

# 学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **82** 2022  
秋号

Special Feature

理事長・学長からの  
メッセージ vol.25

MBTうめきた映画劇場を開催



奈良県立医科大学  
Nara Medical University

# Contents

<b>特集</b>	理事長・学長からのメッセージ vol.25	3
	研究紹介	4
	MBT 研究所だより (第 26 報)	7
	令和 3 年度計画の業務実績に関する評価結果	8
	国際交流センターだより vol.9	10
	図書館だより	13
	働き方改革だより	14
	先端医学研究支援機構だより	16
<b>Topics</b>	「診療情報管理士」を知っていますか？	17
<b>Campus News</b>	令和 4 年度第 1 回キャンパスミーティングを開催しました	18
	『HANAZONO EXPO』への出展が決定しました	18
	第 2 回 MBT 映画祭映像作品募集について記者会見を行いました	18
	看護学科オープンキャンパス 2022 を開催しました	18
	同志社女子大学から小崎学長、関係学部長が来学されました	19
	奈良県立高等技術専門校の訓練生が本学の設備を見学に来ました	20
	令和 4 年度コンソーシアム実習 (奈良医大・早大連携講座) を開催しました	20
	MBT 在宅医療の基調講演と鼎談を開催しました	20
	『MBT うめきた映画劇場』の企画検討を行いました	20
	奈良臨床漢方医学セミナー (総合診療領域編) を開催しました	21
	社会医学研究会の学習支援活動が学術論文として受理されました	21
	アルミ製車椅子 30 台を寄贈いただきました	21
	第 75 回解剖慰霊祭が執り行われました	21
	医学看護学合同教育科目「次世代医療人育成論」を開講しました	22
	MBT ウエルシア薬局 健康ステーションを開催しました	22
	看護学科教授会で、ハラスメント防止研修を実施	23
	実験動物慰霊祭を執り行いました	23
	第 3 回 MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催しました	23
	『MBT うめきた映画劇場』を実施しました	23
<b>Winner Report</b>	日本皮膚科学会皮膚医学研究基金を受賞しました	24
	第 146 回近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会で優秀演題賞を受賞しました	24
	第 236 回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞 (優秀演題賞) を受賞しました	24
	Neuro2022 で若手道場優秀発表賞を受賞しました	24
	「The Journal of Dermatology」において Top Reviewer Award を受賞しました	25
	分子病理学研究会で優秀ポスター賞を受賞しました	25
	日本神経化学学会奨励賞を受賞しました	26
	第 26 回日本神経麻酔集中治療学会において最優秀演題賞を受賞しました	26
	米国ベストドクターズ社より、医師同士の評価によって選ばれる "The Best Doctors in Japan 2022-2023" に選出されました	26
	未来への飛躍基金だより	27
<b>寄附者ご芳名</b>	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	27
<b>Information</b>	令和 5 年度 入試日程【医学部】	28
	メディア掲載情報	28
	編集後記	28

## 奈良医大が先頭集団にいること

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大が存在感のある医科大学であるためには、種々の分野で先頭集団にすることが必要です。本号では、その一つの例として障害者雇用を取り上げます。

奈良医大の障害者雇用は、障害者雇用推進係の岡山弘美係長の尽力で、大学病院としてトップクラスの実績を挙げています。そのような背景から、令和4年10月10日奈良市において、奈良県立医科大学障害者雇用10周年記念フォーラム「私たちが主役だ！」が開催されました。オープニングのピアノ伴奏から始まって、司会、開会の言葉、自己紹介、病棟発表、パネルディスカッション、閉会のことばなど、ほぼすべてを障害者の方が担われました。

荒井正吾奈良県知事、野田聖子衆議院議員（オンライン）、小野寺徳子厚生労働省障害者雇用対策課長の来賓挨拶や大分県や熊本県からの参加者もあり、盛況となりました。

本学の障害者雇用の取り組みは、平成25年度に5名の実習生を受けたところから始まりました。取り組み当初は「命を預かる業務ができるのか。」などのネガティブな意見がありましたが、障害者を受け入れた職場において、その働きぶりが評価され、徐々に偏見や思い込みは解消されていきました。当初5名から始まった障害者雇用も現在では37名となり、担う業務も拡大してきました。その原動力となっているのが、お互いの「信頼」です。

岡山係長は、障害者雇用を奈良医大を出発点として、全国規模で推進するためのベンチャー企業「(株)MBT ジョブレオーネ」を本年10月17日に設立されました。全国から200社以上が参加するMBT コンソーシアムの社会貢献活動と手を携えて、障害者雇用に貢献していただけるものと期待しています。



## 40年を振り返って

病原体・感染防御医学 教授 吉川 正英



1982年に卒業して40年が経つ。県立奈良病院（現・奈良県総合医療センター）2年間、カナダ（Toronto Mt.Sinai 病院）留学2年半、これ以外の期間は本学に勤務した。

前半約20年間は消化器内科に携わり第三内科・病態検査医学に在籍し、研究では肝と免疫、臨床ではC型肝炎に対するインターフェロン（IFN）治療に取り組んだ。前者はウルソデオキシコール酸の肝特異的免疫調節作用を発見し1992年にHepatologyに報告した。この研究は、恩師・辻井正教授（のち学長）の源発想のもとに理論構築し証明したもので、純・本学発で完遂した。辻井教授にも大変喜んでいただき私も嬉しかった。1989年、非A非B肝炎の病原体としてC型肝炎ウイルス（HCV）が明らかになり、早速第三内科研究室に凍結保存されていた患者血清約500検体を調べると、約85%がHCV抗体陽性（当時は第一世代C100-3）であった（Gastroenterol Jpn. 1991）。その後、コア蛋白部も含めた高精度抗体診断（第二世代以降）とPCR法等の遺伝子検出手段が開発され診断法は確立された。一方、治療では約20年間、IFNが基本治療薬で、投与方法は皮下または静脈内注射、治療期間は数力月から年単位と長く、それでもウイルス排除率は高くはなく、副作用もあった（J.Nara Med. Ass. 1994）。私は、IFNで惹起される自己免疫やHCVとリンパ腫の関心に興味があった（Gastroenterol Jpn. 1993, Clin immunother. 1995, J Clin Gastroenterol. 1997）。多くの症例報告もしたが、これらの研究や報告は、福井博教授と第三内科諸兄との共同作業成果である。今なら、しっかりとした臨床研究に仕立てて大きく報告したのだが、当時の私にはその意識が醸成されていなかった。現在はウイルスに直接作用する薬が多数開発され、2-3ヶ月の内服治療でほぼ全患者さんでウイルス排除を得ることができる。

さて、私自身もIFNを10年近く自己注射したことがある。幼児期のワクチン接種が原因でB型肝炎を発症したからであ

る。毛髪は薄くなりうつ症状も出た。40歳を過ぎ、人生50年程度かとの思いも頭をよぎり、全く新しいことをしようと思った。1998年、寄生虫学教室（当時）の石坂重昭教授からお誘いを受け、まだあまり知られていなかったES細胞を扱う幹細胞研究、臨床では臨床寄生虫学（“古い”イメージがあったがすぐにその進化がわかった）を実践することにした。ES研究では、消内・消外・脳外・眼科学教室らとともに、2002年から数年間の間に、肝細胞様細胞塊、腸管様組織、ドーパミン分泌細胞、膵島様細胞塊、視細胞様細胞の作成に成功した。2006年にはiPS細胞が樹立され、これ以降はこの分野に研究者が殺到するようになった。それでも、なお未踏領域であった内耳有毛細胞の作成に挑み、2012年に2本の論文として報告し（Cell Death Dis. 2012, 2013）、現在は耳鼻科と共同研究を行っている。一方、組織幹細胞研究にも興味が沸き、毛包の幹細胞について、その未分化維持と分化機構について研究を開始し、一連の成果（BBRC数編, Cell Transplant. 2012, J Invest Dermatol. 2015, Sci Rep. 2022）をあげることができた。この分野は、王寺准教授の不断努力によるところが大で、彼の向後の研究骨格のひとつとなることと思う。

最後に、現在、私は臨床寄生虫学会の理事長の立場にある。世界にはなお蔓延しNTDs（Neglected Tropical Diseases）の多くは寄生虫疾患である。国内でも現代の寄生虫疾病は姿を変えて人間の営みに忍び入っている。寄生虫学あるいは臨床寄生虫学は、若い医師や研究者にはぜひ挑戦していただきたい分野のひとつと思っている。荒木恒治先生（寄生虫学教室・初代教授）、高橋優三先生（同門先輩・前岐阜大学教授）にも随分お世話になった。「伝統なき創造は盲目的であり、創造なき伝統は空虚である」とは辻井教授に教わった天野貞祐先生の言葉である。我々につづく未来を拓く研究者が現れんことを願ってやまない。

## 右手にメスを左手に試験管を持って！



脳神経外科学 教授 中瀬 裕之

脳神経外科教室で行っている研究について紹介する機会をいただきましたので、ここに紹介させていただきます。脳神経外科教室では、脳血管障害・脳腫瘍・神経外傷・小児・脊椎脊髄・てんかん（機能外科）など多方面において、医療現場で感じた疑問や問題点などのクリニカルクエスチョンを見出し、基礎および臨床的研究を行っています。

まず、基礎研究ですが、脳血管障害は重要な研究テーマの一つとして取り組んできました。脳卒中の半分以上を占める虚血性脳血管障害は特に高齢者に多く、再発悪化の頻度も高いため、その発症・悪化に関して今後も十分な対策を講じる必要があると同時に予防に関する対策が重要になっています。教室では、in vivo 及び in vitro 系における虚血性神経半影 (Penumbra) のモデル化とその応用、虚血性脳傷害における gap junction の働きに関する研究、低酸素環境が内因性神経幹細胞の遊走・分化に与える影響、spreading depression の虚血性脳傷害に対する影響の研究、虚血再灌流障害に関する研究 - C1-esterase inhibitor および anti-ICAM-1 antibody による脳保護効果、虚血性神経細胞死のシグナル伝達、Ischemic postconditioning における電気生理学的検討などを行ってきました。また、脳卒中の研究のなかで脳静脈灌流障害の研究は脳動脈閉塞による虚血の研究に比べてはるかに遅れた分野です。近年、高齢者の術後静脈性出血や頭蓋底外科の発達に伴い、脳静脈灌流障害後の脳損傷による病態把握の必要性が認識されるようになってきました。そこで、当教室では、独自の脳静脈灌流障害モデルを作成し、ドイツのマインツ大学 (Kempski 教授) と提携して長年基礎的研究に取り組んできました。具体的には、脳静脈梗塞の画像診断に関する基礎的研究—急性期 MRI における皮質造影効果、脳静脈灌流障害と脳浮腫—VEGF の発現と抗 VEGF による脳浮腫抑制効果、硬膜動静脈瘻の発生メカニズム—血管新生関連因子との関係、脳静脈灌流障害における BDNF の脳保護ならびにアポトーシス抑制効果、脳静脈閉塞モデルにおける gap junction の働きと glutamate の関係

についてなどです。一方、脳腫瘍の基礎研究にも力を入れてきました。具体的には、グリオーマ細胞株に対するレベチラセタム併用によるデモゾロミド治療効果増強メカニズムの解析、免疫不全マウスを用いた神経膠芽腫に対する免疫細胞化学療法の開発。また、膠芽腫に対する NK 細胞の抗腫瘍効果についてなどです。さらに、体外細胞培養技術で誘導した高純度活性化 NK 細胞 (Genuine induced natural killer cell ; GiNK) による膠芽腫由来細胞に対する抗腫瘍効果と NK 細胞と免疫チェックポイント機構の関係性、高純度ヒト NK 細胞の効率的な誘導培養技術と最新のゲノム編集技術を組み合わせた TIM-3 ノックアウト NK 細胞の誘導実験なども行ってきました。これらの基礎研究は常に臨床応用を念頭に行ってきました。

次に、臨床研究では、脳血管障害に対する集学的治療に関する研究、脳血管障害術後の脳循環に関する研究、低侵襲脊椎・脊髄手術法の開発、てんかん原性獲得機序に関する臨床的研究、神経内視鏡手術における新しいシステムの開発、脳卒中発症患者のてんかん発症に関する観察研究、脳卒中の医療体制の整備のための研究、ICT を利用した医療機関での脳卒中急性期診療の包括的改善のためのスキーム開発のための多機関共同観察研究、頭蓋頸椎移行部病変における解剖学的破格と手術成績調査、頸椎症性脊髄症における急速進行関連因子の研究、脊髄内腫瘍の治療成績と予後改善因子の解明、頭蓋頸椎移行部動静脈シャントの血管解剖と治療成績の解明、multimodal fusion image を用いたシルビウス裂深部静脈構造の術前評価、下垂体腫瘍に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術における術中眼球運動モニタリング開発の為に電気刺激による誘発眼球運動記録法の比較試験など幅広く行っています。

昔、先輩から「右手にメスを左手に試験管を持った外科医をめざせ」と言われたことがあります。若い先生方には、常にリサーチマインドを持って自らの知識をアップデートしていく臨床医を目指してほしいと思います。

## 研究歴



臨床病態医学 教授 瀨田 薫

1982年(昭和57年)本学卒業です。当時はローテイト研修のシステムは現在のように整っておらず、卒業したら各医局にまず入局するのが一般的でしたので、三上理一郎教授が主宰されていた第二内科に所属し、2年間大学附属病院の臨床研修医として勤務しました。その後3年間済生会中和病院内科に勤務し呼吸器疾患のみならず消化器、循環器疾患を中心に指導を受けながら診療を行いました。研究といえるようなことはこのころからはじめました。

#### 1. 慢性下気道感染症における持続感染菌の局在について

研究面でも直接指導を受けた国松幹和先生の開発された*H.influenzae*に対するモノクローナル抗体を用いて、慢性下気道感染症の患者の病態解明のために行った気管支鏡検査時の凍結標本を免疫染色し、気管支粘膜組織中の持続感染菌の局在を示しました。

#### 2. 聖路加国際病院病理学科

1987年7月から上記に行くことになりました。解剖、手術、生検標本の診断に毎日没頭し、所見を書いたものすべてに指導が細かく入るといった恵まれた環境で、幸せだったと思います。当時は山中晃先生も毎日病院に出てこられていて、斎木茂樹先生は普段は夜中まで平気で仕事をされていましたので詳しく指導を受けることも容易で、さらに病理医としての細々としたことから各標本の所見まで本当に多くのことを蛇澤晶先生から学びました。その他さらに数人の非常勤の先生が来られていました。その中の一人が今春本学病理診断学教授を退官された大林千穂先生で、私は大学時代の同級生の彼女の薫陶を受けたということです。

#### 3. マクロライドの抗腫瘍作用についての実験

1989年7月から大学に戻り、呼吸器疾患診療を主として1例1例を大事に勉強を続けていきました。研究面では喜多英二先生の指導でマウスの実験を開始しました。これは第二内科と細菌学との共同研究の一つで、具体的にはマクロライド薬としてエリスロマイシンおよびクラリスロマイシンを用いて様々な条件での腫瘍細胞の増殖抑制、転移抑制、生存曲線の改善を主として、宿主の腫瘍免疫・炎症機能を介したbiological response modifier (BMR)活性を示し、これらのマクロライド薬が担癌患者の治療・ケアの計画に寄与できる可能性について検討しました。臨床研究としては三笠桂一先生を中心にすすめられました。

#### 4. Harvard School of Public Health

1997年7月から2年間ハーバード大学公衆衛生大学院にvisiting scientistとして留学しました。研究室はDept. Environmental Healthの中のPhysiology Programですが、師事したのはLester Kobzik先生でHarvard Medical School兼任の病理医です。Kobzik先生はHarvard大学の大きな関連病院の一つのBrigham & Women's Hospitalの肺病理の責任者の一人であり隔週で所見を書きに行かれるときはほぼ毎回同行して直接の指導を受けることができました。これには生検・剖検標本にくわえて動物実験の評価としてモデル動物の組織病変を用いるとしても、評価者の独立性に配慮することも重要であることが認識できました。公衆衛生学というか環境病態学というか気管支喘息モデルを用いて自然免疫系のマクロファージの受容体の喘息発症機序に対する関与の解明に始まり、石油燃焼灰燼を用いて大気汚染粉塵の喘息発症や病態の悪化における影響をテーマとして精力的に取り組みました。帰国前に幼児の喘息発症における母親の影響(喘息感受性の母子間伝達)というテーマでの実験を始めましたが、私に続いてKobzik先生のところ留学された須崎康恵先生(現 女性研究者・医師支援センター)の努力で論文とすることができました。

#### 5. 帰国後

喘息モデルを用い、その発症や経過に対する大気汚染粉塵の影響について、さらに血管新生因子との関連などについて須崎先生との共同研究で成果をあげることができました。また主に庄雅之先生(消化器総合外科)、伊藤利洋先生(免疫学)とは共同研究としていろいろご高配を賜りました。2008年看護学科教授を拝命し、看護学教育に携わるようになりましたがこの後健康上の問題もあり精力的に動物実験をこなしていくことには支障をきたすようになりました。臨床医の立場としては、丁寧でかつ学術的にレベルの高い診療を心掛けることを目標として注力してきたつもりです。日常の経過の見直しから視野の拡大につながることもあります。今更と言われるかもしれませんが、細やかにご指導を頂いた成田巨啓先生、木村弘先生、そして第二内科の諸先生に感謝申し上げます。また看護学科への異動後は、そのたぐいまれなる指導力と統率力を持って看護学科を導いていただいた飯田順三先生から本当に多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

## 1. デジタル田園都市国家構想推進交付金獲得

6月17日、内閣府が推し進める「デジタル田園都市国家構想推進交付金」においてMBTリンク(株)が伴走支援していた「更別村SUPER VILLAGE構想」が採択されました。デジタル田園都市国家構想推進交付金の公募にはいくつかのTYPEがありますが、今回採択されたのは、その中でも最大規模のTYPE3であり、約5億円の国庫補助が認められました。ちなみに、TYPE3に採択されたのは全国で6件となっております。

「更別村SUPER VILLAGE構想」では北海道更別村において、高齢者が100歳世代まで生きがいを持って楽しく過ごすために必要な「趣味系サービス」と「健康系サービス(シニア向け・現役向け)」、さらには、いつでもどこでも医療サービスのサポートを受けられる「医療系サービス」の3つの基本サービスと、それを支えるコミュニティナースのサービスを提供するものです。

「更別村SUPER VILLAGE構想」に加え、MBTリンク(株)は奈良県天理市が事業者で採択された「地元で使って、地域を支える～地域デジタル通貨「仮称」まちか」～の事業(TYPE1:国庫補助約5千万円)にも参画しており、MBT活動の全国展開の成果が出ております。

## 2. 手指機能強化手袋の開発

リハビリテーション医学講座(城戸顕教授、眞野智生前准教授)・脳神経内科学講座(杉江和馬教授)と(株)三笠は共同で、(株)三笠が保有の特殊編み技術を用いた手指機能強化手袋を開発しました。

また、パーキンソン病患者の手指筋力を改善させる可能性を世界で初めて臨床研究で確認したことを第59回日本リハビリテーション医学会学術集会で発表しました。本開発の手袋は、各指関節に力を作用させる編み方と糸を工夫して、予め手の甲側に向かって反り返っており、装着すると掌を開く方向に力が働きます。このため装着したまま普段通りの生活動作を行うことで手指機能を強化することにつながります。本開発の手袋は、医療機器として全国のリハビリテーション治療を行う病院のみならず、アスリートの筋力増強訓練機器や、高齢者のフレイル予防機器としての市場も期待できます。



手指機能強化手袋外観

手指機能強化手袋装着状態

## 3. MBT 難病克服キャンペーン

MBT研究所は難病に関わる研究者や、難病に携わる人々や組織を支援する「MBT 難病克服キャンペーン」を重点活動として取り組んでいます。その取り組みは、1) 協賛企業の募集、2) 難病の現状を知るセミナー、3) MBT映画祭の3本柱で進めています。

### (1) 企業協賛

協賛企業は現在30社におよび、各企業が行いやすい形での様々な貢献が行われています。

### (2) 難病克服支援WEBセミナー

難病克服支援WEBセミナーに関しては、第1回を昨年9月4日、第2回を本年3月5日、第3回を本年9月17日に開催しました。第3回のセミナーでは、神経難病の新しい治療法について、国立精神・神経医療研究センター病院長の阿部康二先生に、映画において難病がどのように描かれていたかについて映画監督の西尾孔志先生にご講演頂きました。

### (3) MBT映画祭

第2回MBT映画祭は2023年1月14日12時～19時30分、東京の有楽町マリオンにて開催致します。上映と併せて衆議院議員の野田聖子氏による特別講演を行うとともに2021年度アカデミー賞受賞作品「Coda コーダあいのうた」を特別上映します。作品募集は既に開始しており、11月25日まで受け付けます。

さらに第1回映画祭で寄せられた作品の上映会を開催しており、3月19日には関西文化学術研究都市機構のけいはんなプラザで、10月1日にはうめきた外庭SQUAREで上映会を催しました。

また、新しい試みとして第2回MBT映画祭の運営費用、入賞作品の周知と上映活動の費用等を支援するため、クラウドファンディングの募集を行っております。

# 令和3年度計画の業務実績に関する評価結果

第3期中期計画の3年目にあたる令和3年度計画の業務実績について、県の評価委員会による評価結果が通知されました。

第3期中期目標では、「地域貢献」、「教育」、「研究」、「診療」、「法人運営」の5つの柱立てのもと価値目標を掲げ、それぞれに具体的な実現目標が定められています。

令和3年度計画は、新型コロナウイルス感染症により、当初の計画で予定していた取組が実施できない、または十分な実施ができなかったために成果があがらなかったなど、大きな影響を受けました。令和2年度計画の業務実績に対する評価においては、評価基準が新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ事態を考慮した評価体系となっていなかったため、令和3年度計画の業務実績に対する評価に際し、評価委員会が評価の実施要領を改正したことにより、新型コロナウイルス感染症のような中期目標策定後の情勢の変化に伴う新しい事態が発生した場合に、その影響を考慮した評価が行われることとなりました。その結果、令和3年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に関して、全体として「順調に進んでいる」と評価を受けました。

令和4年度は、第3期中期計画（令和元年度～令和6年度）の折り返しとなる4年目にあたります。いまだ新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たず各分野において様々な対応が求められる状況ではありますが、第3期中期目標・中期計画の達成に向け、引き続き皆様のご理解と積極的なご参画をお願いいたします。

## 令和3年度 評価結果の概要

### 全体評価

中期目標で掲げる7項目（Ⅰ.地域貢献＜教育関連＞、Ⅰ.地域貢献＜研究関連＞、Ⅰ.地域貢献＜診療関連＞、Ⅱ.教育、Ⅲ.研究、Ⅳ.診療、Ⅴ.法人運営）のうち、「地域貢献＜研究＞」及び「研究」については、**「中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある」**、「地域貢献＜教育＞」、「地域貢献＜診療＞」、「診療」及び「法人運営」については、**「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**、「教育」については、**「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」**と評定し、公立大学法人奈良県立医科大学の令和3年度の業務実績については、**「中期目標・中期計画の達成に関して全体として順調に進んでいる」と認められる。**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面授業や病院実習、国内外での研修が十分に行えないなどの影響があったが、オンラインやシミュレータを活用するなど代替的な取組の実施により中期計画・年度計画実現に向け取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症患者を重点的に受け入れる重点医療機関として、多数の専用病床の確保、重症患者の受入をはじめ、他の医療機関や福祉施設等への感染防止対策の助言・指導など、新型コロナウイルス感染症対策に関して、県民を守る「最終ディフェンスライン」として多大な貢献をした。

なお、今回、新型コロナウイルス感染症の対応により得られた経験や知見については、教育・研究・診療の各分野の今後の取組に寄与させるよう尽力されたい。

### 項目別評価

#### Ⅰ. 地域貢献＜教育関連＞

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇県費奨学生の制度趣旨の理解を深め、医師としてのキャリアパス形成を支援し離脱防止を図ることを目的に、新入生及びその保護者に対し、奨学生制度の説明会を行うとともに、冊子「県費奨学生制度に関する報告」を作成し、県内の病院やへき地診療所、全国の地域医療系講座を有する国公立大学に配布した。など

課題

◇看護学科卒業生の保健師県内就業者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により「へき地体験実習」が中止となったことや、「公衆衛生看護学実習」の実習施設が限定され、十分な実習ができなかったことから、第3期期間平均4.3名となり、目標（第3期期間平均6名）を達成できなかった。

#### Ⅰ. 地域貢献＜研究関連＞

年度評価：Ⅴ（中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある）

注目される取組（評価の高い事項）

◇各市町村の健康づくり推進協議会等に参画し、計画立案や可視化への助言を行った。また、市町村の調査や公的統計のデータ分析を進め、研究成果として情報発信した。など

#### Ⅰ. 地域貢献＜診療関連＞

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇救急隊からの受入照会に対する受入率の向上を図るため、e-MATCHを活用した救急コーディネーター事業の確立について、県、消防、附属病院医師による救急搬送及び医療連携協議会で、より効率的なe-MATCHの運用方法について検討した。など



## 課題

◇救急隊からの受入照会に対する受入率は、新型コロナウイルス感染症第4波及び第5波の感染者数急増に伴い高度救命救急センターは常に満床に近い状態で運用せざるを得ず、受入困難な状況が発生したため低下した。

## II. 教育

**年度評価：Ⅲ（中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる）**

### 注目される取組（評価の高い事項）

◇文部科学省の公募による「感染症医療人材養成事業」に、事業計画が選定されたため、当該計画に基づく高度シミュレータを整備し、臨床実習等で活用した。など

## 課題

◇「医師の現役卒業生の国家試験合格率」は、全国公立大学中25位となり、目標（国公立大学トップ10）を達成できなかった。

◇「看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均」は、実施対象者（4年生）が令和2年度、令和3年度の2ヶ年新型コロナウイルス感染症の影響により、病院実習が十分実施できなかったことなどにより低下した。

## III. 研究

**年度評価：V（中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある）**

### 注目される取組（評価の高い事項）

◇研究支援の中核を担う医学研究支援センターの強化を図るため、センター長を配置するとともに、研究の技術支援や研究機器の維持管理等の役割を担う専門技術職員2名を配置した。

◇奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化委員会において、活動内容等について議論を行い、連携推進方策を検討した。また、令和3年度の共同研究助成事業の成果報告会を行うとともに令和4年度の共同研究助成の選考を行った。など

評価結果は大学ホームページに掲載しています

<https://www.narmed-u.ac.jp/university/gaiyo/kekaku-hyoka/gyomujoho2/gyomujoho2.html>  
（大学 HP > 大学概要 > 大学の計画と評価 > 業務に関する情報 > 業務実績評価結果）

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会 委員名簿

氏名	役職等
今中 雄一	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 教授
◎垣内 喜代三	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授
竹田 幸博	地方独立行政法人埼玉県立病院機構 理事
任 和子	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 生活習慣病看護学分野 教授
堀 正二	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 名誉総長

（五十音順 敬称略 ◎は委員長）

## IV. 診療

**年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）**

### 注目される取組（評価の高い事項）

◇新型コロナウイルス感染拡大防止のため全医療従事者を対象としたホスピタリティマインド醸成研修会をeラーニング配信で実施した。研修は、令和2年度に実施したアンケート結果を踏まえ分かりやすく実践的な内容になるよう検討した。など

## 課題

◇認定看護師の資格取得者は、新型コロナウイルス感染症の影響により、1名の受講希望者がいたが休講となったこと、県外研修施設への積極的な受講の働きかけができなかったことなどから第3期期間累計4名となり、目標（令和元年度からの累計9名増加）を達成できなかった。

◇後発医薬品の使用割合80%の達成に向け、39品目の切替を実施しようとしたが、後発医薬品メーカー2社が業務停止命令を受けた影響で、その他の後発品メーカーの製品に過剰に注文が入り出荷が制限されたため、切替ができず、使用割合は77%であった。

## V. 法人運営

**年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）**

### 注目される取組（評価の高い事項）

◇令和2年度との比較分析等も含めた令和3年度決算見通しについての役員会での議論及び毎月の経営に関する各種指標について病院経営・運営会議、病院運営協議会で報告を実施し、情報共有を図るなど繰越欠損金の縮減に向けた取組を行った。

◇看護師の業務負担の軽減を図り、働きやすい職場環境を整備するため、始業前超勤の縮減や障害者雇用職員へのタスクシフト（ベッドメイク）について検討を行うとともに、看護補助者への研修を実施した。など

### 【項目別評価】

V：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

Ⅳ：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

Ⅲ：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる（標準値）

Ⅱ：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている

I：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

# 国際交流センターだより vol.9

## 海外リサーチクラークシップ研究成果報告会を開催しました

7月17日、「海外リサーチ・クラークシップ研究成果報告会」を開催しました。2019年度に海外の研究施設に研究留学した医学科5年生11名（うち1名は留学先国の情勢により留学中止）が、帰国後も継続してきた研究成果を報告し、学業と研究活動を両立する日々で成長した姿を披露しました。報告会終了後には表彰式が行われ、嶋医学部長より最優秀賞と優秀賞が授与されました。



### MESSAGE

国際交流センターセンター長  
嶋 緑倫（医学部長）

今年度の報告会では11名の学生の皆さんの発表がありました。短いプレゼン時間でしたが、それぞれ研究の内容を工夫してうまくまとめており、学生とは思えないまさに研究者レベルの発表で感心いたしました。また、質疑応答も立派でした。国際マインドと研究マインドの醸成は本学の教育方針の中でもとても重要視しています。この経験をもとに、医師になってからも研究マインドを忘れず、国際的に活躍できる医師、研究者をめざしていただきたいと期待しています。

国際交流センター副センター長  
森 英一朗（未来基礎医学准教授）

この研究成果報告会では、熱のこもった発表や質疑応答が行われ、彼らがまだ学生であることを忘れさせてくれます。内容は非常に多岐に渡りますが、彼らに共通しているのは、先人の積み上げてきた研究成果に基づいて、それらを発展させていっているプロセスを、しっかりとかみしめ、楽しんでいるところでしょう。この学生時代の経験を、今後のキャリアに繋げていけるよう期待するとともに、プログラムとして継続的に支援していけるよう取り組んで参ります。

研究部長  
吉栖 正典（薬理学教授）

今年で海外リサーチ・クラークシップの研究成果報告会も4回目になりました。もともとリサーチ・クラークシップは、以前にあった研究室配属実習をさらに充実させようと、車谷前医学部長が主導されて、私が基礎教育部長の時に始まったものでした。実習期間も1ヶ月から3ヶ月に延長されたのですが、せっかく期間が延びるのなら学生さんに海外で研究を経験してもらおう機会にもしようと考え、学内の教授の先生方を中心に伝手のある派遣先を紹介していただいたのが始まりでした。研究成果報告会は彼らが海外に出てから2年後に行われますが、いつもこの間の彼らの成長に驚かされます。ここ2年のコロナ禍で海外での実習は中止となっていますが、また近く再開されるでしょう。その時には多くの学生さんが手をあげてくれることを期待しています。

基礎教育部長  
堀江 恭二（生理学第二教授）

本年度も、昨年度に続いて、甲乙つけがたい審査委員泣かせの発表が目白押しでした。医学生としての多忙な日々の中で着実な研究成果を挙げていることに、感心することしきりです。きっとこれは氷山の一角であり、発表者の方々以外にも、様々な分野で高みを目指している学生さんが多くいることだろうと思い、若い力を頼もしく感じました。最後に、学生さんを日々ご指導いただいている先生方へ、厚く感謝申し上げます。

教養教育部長  
酒井 宏水（化学教授）

本年も海外リサーチ・クラークシップの研究成果を拝聴させていただきました。皆さんが堂々と発表し、質疑応答している姿に、自身が留学先から帰国した当時のことを重ねていました。学会発表、論文発表にまで到達した完成度の高い研究成果もあり、皆さんの努力の賜物であることは勿論、ご指導くださった先生方の貢献も相当なものであったろうと拝察します。今後もぜひ研究マインドを持続し研究を発展していただきたいと思います。

**最優秀賞** 医学科5年 竹下 沙希 (公衆衛生学)

### レセプトビッグデータのクラスター解析によって明らかになった高度肥満の不均一性

後輩には、ぜひ積極的に海外で学んでほしいです。私は COVID-19 が流行しはじめた時、実験の合間に感染者数の動向をチェックする研究室のメンバーを見て公衆衛生学に興味を持ちました。成果を報告した研究は、高度肥満集団が臨床的特徴によって複数のクラスターに分かれ、処方内容や合併症に明確な差があることをレセプトデータから示したものです。今後は、肥満患者に対する医療の発展に貢献できるように研究を進める所存です。これまでの研究に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。

(🇺🇸 Columbia University Medical Center / アメリカ)



**優秀賞** 医学科5年 時永 志帆 (循環器内科学)

### GRK2 と CS1 急性心不全のメカニズム

この度は優秀賞を授与していただき、誠にありがとうございます。海外リサーチ・クラークシップを通して、研究の重要性や研究に対する積極的な姿勢を学ばせていただきました。また、帰国後の研究活動では循環器内科学教室で、様々な実験手技や研究に必要な考え方を指導していただき、日々研究に取り組んでおります。この数年間で学んだことを今後に活かしていけるよう精進したいと思います。改めて、ご指導・ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

(🇸🇬 Young Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore / シンガポール)



**優秀賞** 医学科5年 森 祐貴 (精神医学/発生・再生医学)

### Nicotine may ameliorates social dysfunction induced by early-life adversity through anti-inflammatory effects in mice

この度は優秀賞をいただき、誠にありがとうございます。今回の受賞は、これまでお世話になりました皆様のおかげであると実感しております。海外リサーチに参加したことで出会った方々、得られた経験が今の自分に大きな影響を与えたことは間違いありません。後輩の皆様も、是非挑戦して知見を広げて頂ければと思います。

研究者としてはまだまだ駆け出しではございますが、今後も医学の発展のためにより一層邁進してまいります。

(🇺🇸 Massachusetts General Hospital / Harvard Medical School / アメリカ)



#### 発表学生一覧 (氏名・所属研究室・発表演題・留学先)

若山勝紀 (薬理学)	重症 COVID-19 患者における血清 cell-free DNA レベルの上昇 (🇺🇸 Medical College of Georgia, Augusta University / アメリカ)
山田 愛 (未来基礎医学)	AlphaFold を用いた URAT1-dotinurad 複合体の構造予測 (🇨🇦 University of Alberta Hospital / カナダ)
喜多真由 (分子病理学)	Role of mitochondrial creatine kinase in colon cancer cells (クレアチンキナーゼの大腸癌細胞における役割について) (🇨🇦 University of Alberta / カナダ)
原田安美 (未来基礎医学)	マウス視床下部細胞での Ghrrh、Sst、AgRP、SF-1 発現細胞のアドレナリン受容体の発現 (🇺🇸 University of Texas Health San Antonio / アメリカ)
二川真由 (未来基礎医学)	ATR 阻害剤によるがん細胞の温熱感受性増強についての検討 (🇺🇸 University of Texas Health San Antoni / アメリカ)
洪 永鎮	My individual conception on the future plan (🇮🇹 Department of Biomedical and Neuromotor Sciences, University of Bologna / イタリア)
東谷優輝 (第二生理学)	ゲノム編集による conditional allele 作製の効率化に向けた意図しない組換え様式に関する long-read sequencing 解析 (🇭🇰 Hong Kong Polytechnic University / 香港 [留学先国の情勢により中止])
山田航大 (循環器内科学)	たこつぼ症候群発症メカニズムに関する研究 (🇺🇸 Cincinnati Children's Hospital Medical Center / アメリカ)

# 国際交流センターだより vol.9

## 「第4回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」を開催しました

8月2日、医学科6年生を主対象に、オレゴン健康科学大学・IVR科の堀川 雅弘 先生を講師にお迎えし米国臨床留学についての講義が行われました。講義は二部構成からなり、第一部は臨床留学へのステップとなるUSMLEについての最新のアップデート及び専門家として臨床留学を目指す際の戦略を日本語で、第二部は自身のキャリアの歩み及び診療哲学を英語で講演いただきました。



オレゴン健康科学大学・IVR科 堀川 雅弘

Nothing is impossible. Never give up. These phrases could be somehow cheap ones for some people; however, they were NOT for me in the middle of the difficulty of my career. Working in a different country with completely different language and culture is not easy. Then, why? Why should you pursue the different career path? —You don't have to. It's all the same for your entire career. You just have to determine your careers by yourselves. There will be a lot of uncontrollable factors affecting your career choices: lots of chance encounters and some good and bad lucks. Regardless, it's eventually you, that is going to determine your own careers. Never waste your precious time by blaming somebody else and/or whatever you cannot control. Focus on whatever you can control, do your best efforts, and be prepared for grabbing your best fortune. Lastly, be great doctors, together.

### 放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋

英語で学ぶ医学・看護学セミナーは、国際医療人の育成を目指した本学の授業プログラムです。今回の英語セミナーは、授業の中で英語に触れてもらうという目的以外に、海外でのキャリアパスを意識して頂きたいという思いで、主に医学科6年生を対象に企画しました。講師として現在米国オレゴン州のOregon Health and Science University (OHSU) で臨床医として勤務しておられる堀川雅弘先生をお招きしました。堀川先生は、私と同じくIVRに魅せられ放射線科医になり、卒後7年目に渡米し、自力で現在のポジションを獲得されました。OHSUは、まさに世界のIVR発祥の地であり、本学附属病院長の吉川公彦先生も留学されていた施設です。堀川先生は2012年にOHSU放射線科のKaufman教授が当講座を訪問された際に吉川先生のお計らいで対面され、その後に受け入れを直談判されたそうです。ご講演では、このような自ら道を切り開く力や異国の地での苦勞を苦勞と感じない前向きな姿勢を教えてくださいました。本講演に刺激を受け、海外に羽ばたくきっかけとなることを期待しています。



### 学生の声

#### 医学科6年 奥村 由紀

この度のセミナーを受け、医学・看護学を学ぶ中でも英語に触れる機会があることは非常に貴重なことだと思いました。日本にいと英語を使う必要はほとんどなく、自主的に英語を使う機会を設ける必要があります。そのため、特に大学生の時からこうして授業などの一環として英語に触れる機会を設けてくださることは非常にありがたいと感じました。さらに学生が英語で質問をすることで、学生同士が互いに刺激を受けることができるのではないかと思います。



#### 医学科6年 渡部 開智

私をはじめ、多くの同級生が海外での臨床留学に興味を持っておりますので、堀川先生の講義は自身の将来の医師像を考えるうえで非常に興味深く、刺激的でした。臨床留学に関しては海外への純粋な憧れもありますが、堀川先生の話の中でもあったように、日本での数年分に相当する症例数を海外では1年間で経験できる点は、早く1人前になることができるという点で大きな魅力のように感じました。この刺激を忘れず、勉学に励みたいと思います。



## 医中誌 Web の PubMed 検索

2022年4月27日に医中誌 Web の大規模なバージョンアップが行われました。今回の一連のバージョンアップにより、従来の論文検索に加え、新しい機能が使えるようになりました。その一つが「PubMed 検索」です。慣れ親しんだ医中誌の画面で PubMed が検索できるようになり一見便利そうな機能ですが、まだまだ改良の余地がある内容で、使うときにはいくつか注意するポイントがあります。今回はそのポイントを交えながら、使い方をご紹介します。

### 【医中誌 Web の PubMed 検索の基本的な流れ】

医中誌にログインすると、左側に検索メニューが表示されます。上から5番目の「PubMed」をクリックすると、PubMed 検索の画面に切り替わります (図 1)。

図 1. 医中誌 Web の PubMed 検索トップページ



### ① キーワード検索

思いついた単語を入力します。入力された語に対応する MeSH がある場合は MeSH が付与され、自動翻訳された英語の自然語と OR で組み合わせて検索されます。ここでまず一つ目のポイントです。複数のキーワードで検索するときは、1語ずつ検索する必要があります。複数入力すると、スペースも含む入力した文字列全体が MeSH に対応するかを判断して検索に反映されるため、単語ごとに対応している MeSH が正しく付与されません。複数のキーワードの場合は、図 2 のように 1語ずつ検索し、それらにチェックをいれ AND で履歴プラス検索を行います。

図 2. 医中誌の PubMed 検索画面 (2022年9月8日現在)

#1	Diabetes Mellitus[MH] OR diabetes	840,825件
#2	Influenza, Human[MH] OR influenza	123,771件
#3	#1 AND #2	1,756件

また、もう一つ大きなポイントがあります。それは実際の PubMed 検索とは検索結果の件数が異なるということです。図 2 と同じ検索を PubMed で行うと図 3 のようになり、件数が違ってきます。この現象は、検索プロセスの違いによります。医中誌の PubMed 検索は、PubMed API (E-Utilities) を利用しています。この API の検索ロジックは、アップデート前の旧 PubMed と同じもののため、PubMed での検索結果と件数や表示順が異なっています。PubMed API については、2022年内にアップデートが予定されています。API アップデート後は、医中誌の PubMed 検索結果と、実際の PubMed 検索結果は一致する見込みです。

図 3. 実際の PubMed 検索画面 (2022年9月8日現在)

#3	*** >	Search: (Diabetes Mellitus[MH] OR diabetes) AND (Influenza, Human[MH] OR influenza)	2,005
#2	*** >	Search: Influenza, Human[MH] OR influenza	150,103
#1	*** >	Search: Diabetes Mellitus[MH] OR diabetes	889,779

### ② 絞り込み条件の検索


検索結果が多いとき、キーワードを追加するだけでなく、絞り込み条件を使用することもできます。検索結果の左側に、抄録有無、論文言語、副標目、チェックタグなどの絞り込み条件が簡易表示されています。右下の矢印マーク  を押しすると全ての絞り込み条件が表示されます。PubMed に対応しているため、医中誌の絞り込み条件とは異なっています。また、ここにもポイントがあります。副標目で絞り込む場合、簡易表示と全表示では絞り込み内容が異なります。副標目は主標目の内容を限定するもので、PubMed では Subheadings にあたりますが、簡易表示で副標目を指定すると、表 1 のように副標目と論題フィールド指定を組み合わせた絞り込みが組み合わされます。全表示で副標目を選択した場合は、対応する Subheadings がそのまま検索されますが、簡易表示ではそれ以外にもキーワードが加わっているため、多めにヒットします (図 4)。

表 1. 簡易表示での副標目

診断	*diagnosis*[SH] OR Diagnosis[TI]
治療	(*therapeutic use*[SH] OR *therapy*[SH]) OR (Therapeutic[TI] OR Therapy[TI] OR Surgical[TI] OR Surgery[TI])
副作用	(*adverse effects*[SH] OR *chemically induced*[SH]) OR (adverse effects[TI] OR side effects[TI] OR tox[SB])

図 4. 簡易表示 (#4) と全表示 (#5) での副標目絞り込みの違い

#4	#3 AND ( ("diagnosis"[SH] OR Diagnosis[TI]))	182件
#5	#3 AND ( ("diagnosis"[SH]))	174件

### ③ 検索結果の確認

医中誌と同じように、検索式の下にヒットした文献が一覧表示されます。「+タイトル和訳」をクリックすると、自動翻訳された論文タイトルの和訳を表示することができます。

### ④ 必要に応じて再検索

検索結果を確認しながら、キーワードを増やしたり、絞り込み検索を使って目的に沿った文献がたくさんヒットするように何度か検索を行います。

### ⑤ 本文へのアクセスや Abstract などの確認

検索結果がだいたい揃ってきたら、本文へのアクセスや Abstract などと読みたい文献かどうかを確認します。なお、医中誌内 PubMed ではリンクアイコンは1つのみ表示されます。また Abstract や論文データに付与された MeSH は表示されません。詳しい検索結果を見たいときは PubMed サイトに移動します。医中誌の検索式ステップナンバー (#○) をクリックして「この検索式の結果を PubMed で見る」を選択すると PubMed の画面が開きます。医中誌の PubMed 検索では検索結果の印刷やダウンロードなど出力ができないため、検索結果は PubMed で確認の方が利用しやすいでしょう。

一通り検索の流れをご紹介します。医中誌の PubMed 検索は、実際の PubMed 検索の代替というより、PubMed 検索の足がかりとしてお使いください。

【参考】 医中誌 Web の PubMed 検索

<https://help.jamas.or.jp/houjin/pubmedAbout.html>

# 働き方改革だより

## ★令和3年度満足度調査の結果がまとまりました

昨年度の職員満足度調査の結果について、その一部をご紹介します。

### 【実施期間】

令和4年2月21日  
～令和4年3月9日

### 【回答率】

職 種	年度	配布数	回答数	回答率
全 体	R3	2,860	2,372	82.9%
	R2	2,774	2,350	84.7%
R3とR2の差		86	22	△1.8%

### 【主な回答結果】

#### 1. 満足度に関する質問（2つ）の回答について

##### ①あなたの仕事と生活の調和（ワークライフバランス）に対する満足度を教えてください

職 種	(今年度) 満足 + ほぼ満足	(前年度) 満足 + ほぼ満足	(前々年度) 満足 + ほぼ満足
【1】 教員（臨床系）（n=212）	40.6%	43.3%	33.8%
【2】 教員（臨床系以外）（n=135）	60.0%	58.5%	51.5%
【3】 医員（診療助教を含む）（n=241）	34.9%	38.1%	41.5%
【4】 臨床研修医（n=47）	46.8%	56.7%	56.8%
【5】 看護師・助産師（n=907）	29.8%	32.0%	26.7%
【6】 医療技術職員（n=299）	42.5%	44.9%	33.2%
【7】 事務・技術・看護補助職員等（n=531）	53.1%	51.4%	43.9%
総 計（n=2,372）	40.1%	42.1%	35.6%

満足度について、昨年度より一部の職種を除いて低くなっていますが、一昨年との比較では**全体的に向上**しています。



凡例  : 今年度（R3年度）の調査結果

##### ②職場に対する満足度を評価する際、あなたが最も重視するものは何ですか

職 種	1 仕事の やりがい	2 仕事の 質、内容	3 仕事の量	4 労働時間	5 給与・賃金の 額	6 自身の研究・ スキル・ キャリアの向上	7 休日・休暇 の日数	8 福利厚生・ 各種休暇制度	9 職場の 人間関係
【1】 同上	39.6%	32.1%	1.9%	2.4%	12.3%	5.2%	0.9%	0.5%	5.2%
【2】 同上	42.2%	26.7%	0.7%	2.2%	10.4%	8.1%	0.7%	0.0%	8.9%
【3】 同上	26.6%	29.5%	2.1%	4.1%	16.2%	9.1%	1.7%	0.4%	10.4%
【4】 同上	14.9%	34.0%	2.1%	6.4%	21.3%	4.3%	10.6%	2.1%	4.3%
【5】 同上	22.2%	15.5%	4.9%	5.0%	22.6%	1.0%	6.7%	0.9%	21.3%
【6】 同上	26.1%	24.4%	1.3%	3.3%	19.4%	4.3%	4.7%	1.3%	15.1%
【7】 同上	25.2%	18.5%	1.7%	3.8%	18.8%	2.4%	2.4%	1.1%	26.0%
総計 (n=2,372)	26.3%	21.2%	2.9%	4.0%	19.1%	3.4%	4.2%	0.9%	18.0%

凡例  : 職種ごとに最も回答割合の高かった項目  : 職種ごとで2番目に回答割合の高かった項目

## 2. 仕事のやりがいに関する質問(2つ)の回答について

### ①現在の仕事にやりがいを感じていますか

職種	(今年度) とても思う + やや思う	(前年度) とても思う + やや思う	(前々年度) とても思う + やや思う
【1】 教員(臨床系) (n=212)	84.4%	84.8%	89.2%
【2】 教員(臨床系以外) (n=135)	86.7%	84.5%	83.2%
【3】 医員(診療助教を含む) (n=241)	73.4%	77.4%	90.0%
【4】 臨床研修医 (n=47)	53.2%	73.3%	74.5%
【5】 看護師・助産師 (n=907)	62.7%	60.1%	61.6%
【6】 医療技術職員 (n=299)	63.5%	61.5%	60.0%
【7】 事務・技術・看護補助職員等 (n=531)	57.4%	56.8%	51.1%
総計 (n=2,372)	65.9%	65.7%	64.3%

やりがいを感じている職員の割合が毎年向上していること、また、どの職種でも半数以上の職員がやりがいを感じているとの結果でした。



凡例  : 今年度(R3年度)の調査結果

### ②やりがいが感じられない理由は何ですか(複数回答可)

職種	1 給与が見合わない	2 仕事の量が多い	3 労働時間が長い	4 職場の人間関係が悪い	5 自分の経験・スキルを活かせない	6 仕事内容や資格を適切に評価されない	7 業務に裁量権がない	8 その他	9 特にあてはまるものはない or 無回答
【1】 同上	56.6%	45.3%	34.4%	19.3%	12.3%	22.6%	10.8%	5.7%	15.1%
【2】 同上	28.9%	18.5%	11.9%	23.7%	14.8%	22.2%	22.2%	4.4%	29.6%
【3】 同上	58.9%	39.8%	41.5%	19.9%	17.8%	19.5%	15.4%	5.0%	8.7%
【4】 同上	42.6%	25.5%	27.7%	23.4%	12.8%	8.5%	27.7%	0.0%	19.1%
【5】 同上	54.7%	56.3%	42.0%	19.5%	13.2%	16.4%	9.5%	9.7%	10.1%
【6】 同上	39.1%	37.8%	16.4%	25.4%	20.1%	29.4%	15.7%	10.4%	14.4%
【7】 同上	37.7%	25.0%	9.4%	19.8%	14.9%	19.0%	10.4%	8.5%	26.0%
総計 (n=2,372)	47.8%	41.6%	28.8%	20.7%	14.9%	19.7%	12.3%	8.2%	15.8%

凡例  : 職種ごとで最も回答割合の高かった項目  : 職種ごとで2番目に回答割合の高かった項目

お忙しい中たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。

こちらの満足度調査は、毎年度継続して実施する予定ですので、来年もご協力のほどよろしくお願いいたします。



毎年の調査結果を参考に、今後も、職員の満足度向上に取り組めます。なお、今回の調査結果については、学内ホームページ「働き方改革推進委員会」のカテゴリに掲載しております。是非ご参照ください。



# 先端医学研究支援機構だより

## 研究力向上支援センターからのお知らせ

### 1 令和5年度科研費獲得セミナーを開催しました

令和5年度科学研究費助成事業に係る科研費獲得セミナーを3回にわたって開催しました。

第1回は7月27日に主として医学系：基盤研究(A)・(B)向けに、発生・再生医学 教授 栗本一基先生に「科研費申請のときに考えていること」、麻酔科学 教授 川口昌彦先生に「令和4年度 科研費獲得セミナー」と題して講演いただきました。

第2回は8月2日に看護学系向けに、成人慢性期看護学 准教授 升田茂章先生に「看護学研究者の科学研究費申請にむけて」と題して講演いただきました。

第3回は8月10日に医学系：基盤C・若手研究向けに第一解剖学 講師 堀井謹子先生に「[抽象度]を意識した申請書の作成」、泌尿器科学 助教 後藤大輔先生に「若手研究、不採択を経て採択をとった経験から」と題して講演いただきました。

各先生からはご自身の経験に基づき、科研費申請書作成のテクニック、審査員の立場から見た評価のポイント等、具体的な事例を示しながら貴重なお話をいただきました。

また、各回、研究力向上支援センター上村陽一郎特命准教授より「令和5年度科学研究費助成事業への応募について」と題して全般的説明と注意事項の説明をさせていただいています。

会場やオンライン参加を含めて多数の参加がありました。セミナーは、研究推進課の学内専用ホームページで視聴が可能ですので、当日参加されていない方は是非ご覧ください。



発生・再生医学 教授  
栗本一基先生



麻酔科学 教授  
川口昌彦先生



成人慢性期看護学 准教授  
升田茂章先生



第一解剖学 講師  
堀井謹子先生



泌尿器科学 助教  
後藤大輔先生

### 2 若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー) vol6、vol7 を掲載しています

(本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 若きトップサイエンティスト

このシリーズは、本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。

Vol6では、循環器内科学 助教 中川仁先生の論文「Local Action of Nephrysin Exacerbates Pressure Overload Induced Cardiac Remodeling」【Hypertension】についてインタビューさせていただきました。

Vol7では、脳神経内科学 助教 七浦仁紀先生の論文「C9orf72-derived arginine-rich poly-peptides impede phase modifiers」【Nature Communications】についてインタビューさせていただきました。

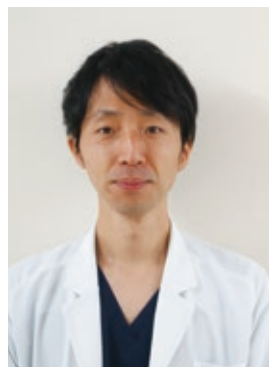
先生方の論文の概要や、本研究を進めてこられた動機、プロセスをお伺いするとともに、今後の抱負などについてインタビューさせていただきました。

これらの内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

研究力向上支援センターでは、この他様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「科研費ニュース～Go for it! KAKEN～」や研究力向上支援センターの学内ホームページでご紹介をしていきますのでご期待ください。



循環器内科学 助教  
中川仁先生



脳神経内科学 助教  
七浦仁紀先生



## 「診療情報管理士」を知っていますか？

医療情報部 部長 玉本 哲郎

みなさんは診療情報管理士という資格を知っていますか。診療情報管理士は、診療記録および診療情報を適切に管理し、そこに含まれる情報を活用することにより、医療の安全管理、質の向上および病院の経営管理に寄与する専門的な職業です。具体的には、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」の3つが知られています。病院においては、診療報酬請求で重要な位置を占める診療録体制加算の算定やDPCコーディングにおいて必要な人材です。大学病院では、診療記録の運用管理、DPCコーディングのサポート、がん登録事業が3大業務であり、最近では、「情報の活用」の役割も病院経営の観点から求められるようになってきました。

診療情報管理士の始まりは、1972年から日本病院会が、基礎課程・専門課程各1年(計2年)の通信教育により、診療録の運用・管理のための専門職として診療録管理士の養成を開始しました。その後、業務内容が拡大したこともあり、1996年に資格名称を診療情報管理士に変更し、現在、日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会の四病院団体協議会および医療研修推進財団で認定を行っています。また、日本病院会が認定した大学、専門学校(3年制以上)においても人材育成が行われています。2003年からは、診療情報管理士の英語表記をHIM(Health Information Manager)とし、国際的な活動を目指し、2021年からは国際診療情報管理士の認定に向けての研修が始まっています。

本学では、病院情報の管理および活用を積極的に行うべく、診療情報管理士の養成をサポートするために、2020年度から診療情報管理士の資格保持者が中心となって主に病院職員に対して試験対策講習会を行っています。日本病院会の通信教育

の受講のみでは、働きながらの資格獲得が難しい状況(合格率50%程度)も考慮し、今年度も2月の認定試験の合格を目指しています。診療情報管理士の養成施設で講師経験がある放射線診断・IVR学講座の堀本江利子さんと地域医療学講座の周藤俊治准教授に講師をお願いしています。その成果もあり、講習会実施後は認定大学卒業者と同程度の70%程度の合格率を確保しており、今後も続けていければよいと思います。このペースで増加すると数年後には、必ず日本一の診療情報管理士数になるはずですが、ただ、人数だけ増えても、得られた知識や技能が施設内で有効に活用できない状況となるので、今後は、種々の部署に分散して配置されているスタッフが有機的に活躍できる体制づくりもしていきたいと考えています。

参考文献：

- 1) 診療情報管理士とは 日本診療情報管理士会。  
<https://kannrishikai.jp/about/first.php>
- 2) 診療情報管理士 -Wikipedia。  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/診療情報管理士>
- 3) 診療情報管理指針2021 日本診療情報管理学会。  
<https://jhime.com/pdf/data2021/guideline2021.pdf>

## 試験対策講習会(2022年9月)



講師を務める堀本さん

## 今後、診療情報管理士に期待される役割

- 1 診療情報管理部門の組織としての確立
- 2 保健医療分野における電子的診療情報の整備を促進する役割
- 3 「退院サマリー作成に関するガイダンス」の活用と普及
- 4 地域における情報共有と医療・介護の連携推進を支援する役割
- 5 WHOの動向を踏まえて診療情報管理の発展と普及を推進する役割

日本診療情報管理学会 診療情報管理士業務指針 2021

7.7

## 令和4年度第1回キャンパスミーティングを開催しました

7月7日に第1回キャンパスミーティングを大学本部棟大会議室にて開催しました。

キャンパスミーティングは、医学科・看護学科の各学年代表者と教職員が授業や学生生活などについて幅広く意見交換を行う場として年2回開催しています。今回は医学科4年生総代の吉田暁彦さん、看護学科3年生総代の野村湧人さんが司会進行を務め、「物品面について」、「大学への意見」、「授業への意見」という3つのテーマについて活発な意見交換が行われました。



キャンパスミーティングの様子

7.22

## 第2回MBT映画祭映像作品募集について記者会見を行いました

MBT 難病克服キャンペーンの一環として、難病や命に関わる疾病罹患患者・関係者の方々の苦境を映像を通して支援するMBT映画祭を開催する予定です。現在、映画祭で上映する短編映像作品を8月1日から全国募集しています。募集に先立ち、映画祭開催の趣旨などを皆様にご覧いただくため、WEB記者会見を実施しました。

記者会見では主催者の細井理事長、MBT映画祭運営委員会委員長の川口教授（麻酔科学教授）、本映画祭の支援をいただいている西尾孔志映画監督が出席し、映画祭の趣旨や、作品募集開始の案内、募集要項の説明などを行いました。

参加した記者からさまざまな質問が寄せられ、映画祭の注目度が高いことがわかりました。映画祭は2023年1月14日（土）東京有楽町で開催する予定です。



記者会見の様子

7.21

## 『HANAZONO EXPO』への出展が決定しました

MBT 研究所では各活動の進捗報告、企画調整の場として月に一度 MBT 研究所運営会議を行っています。

今回、大阪・関西万博の開催に先駆けて2022年11月に東大阪市で開催される『HANAZONO EXPO』への本学の出展が承認されたことが報告されました。

これまでのMBT活動では遠隔診断や使用電力データからのライフスタイル評価等の実証実験を積み重ねており、ポストコロナ社会における新しい生活様式や価値観、最先端のデジタル技術を体験できる機会の提供を目標とする『HANAZONO EXPO』は、一般の方々にもMBT活動の最新の成果に触れていただける場になると考えています。



会議の様子

7.30

## 看護学科オープンキャンパス2022を開催しました

7月30日に看護学科オープンキャンパスを来学型（対面式）で開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2、3年度はWEB開催となり、来学型での開催は3年ぶりとなりましたが、感染対策を徹底した上で、約100名の方にご参加いただきました。

はじめに嶋副学長からビデオメッセージをいただき、続いて川上看護学科長の講演、田中看護教育部長から学科紹介及び入試概要についてご説明いただきました。そして今年の模擬三講義は、人間発達学の太田教授から「人間発達論 一人を理解する上での基準」をテーマに講義いただきました。

また、看護学科棟内の実習施設見学、教員・在学生との相談コーナーなどのプログラムを実施しました。

参加者からは、「実際の教室で模擬講義を受けたり、施設見学では聴診器で心臓の音を聞く体験ができたりと入学後のイメージが膨らみ、大変充実した時間でした。」や「パンフレットだけでは分からない大学の雰囲気が分かり、ここで学びたいという気持ちが一層強くなりました。」などの感想が寄せられました。



模擬三講義

## 8.1 同志社女子大学から小崎学長、関係学部長が来学されました



同志社女子大学の先生方と

本学と同志社女子大学とは、教育・研究・診療に関する相互支援などを目的として、2007（平成19）年に学術交流に関する包括協定を締結し、連携推進協議会のもとで各種連携活動を行っています。

これまでに、シンポジウム・合同講演会を計12回開催し、多くの方にご参加いただいています。また、同志社女子大学の学生による院内コンサートは2019年度までに年2～3回開催しており、入院患者の皆様が大変喜ばれています。演奏する学生のみならず、みなさんにとっても学びの成果を他の人に披露するという貴重な体験の場となっています。

今年の8月1日には、同志社女子大学の小崎学長、芝田薬学部部長、眞鍋看護学部長、山本生活科学部長、斎藤総務部長、兵藤総務課長、森田社会連携係長が来学され、細井学長、嶋医学部長、福益法人企画部長と意見交換を行いました。コロナ禍における大学運営の課題や学生生活をサポートするための工夫、大学や卒業生を取り巻く社会情勢の変化等について、意見を交わされ

ました。また、細井学長からは、MBTコンソーシアムの活動、コロナ対策や難病克服キャンペーン等の取組が紹介されました。

続いて、附属病院内を薬剤部、外来化学療法室、E棟6階、栄養管理部の順に回って、同大学の卒業生が実際に活躍しておられる各部署を見学していただきました。感染対策を考慮したうえで、一部の部署では、学部長が卒業生から直接話を聞く機会も設けられました。限られた時間ではありましたが、学生時代に学んだことを活かしながら、コメディカルとして医療現場の最前線で活躍される卒業生の姿を目の当たりにして、感慨もひとしおの様子でした。

最後に、連携推進協議会を開催し、これまでの活動実績報告と今年度の活動予定について協議を行いました。コロナ禍においてさまざまな活動が制限される中、両校の現状やこれからの連携について、双方の委員により活発な意見交換が行われました。

今後も、合同講演会等の開催を含め、両校の連携活性化に向けた活動を行ってまいります。



眞鍋看護学部長とE棟6階にて



連携推進協議会

8.3

## 奈良県立高等技術専門校の訓練生が本学の設備を見学に来ました

奈良県立高等技術専門校のビルメンテナンス科では、離転職者を対象に設備管理業への就職を目指した訓練をおこなっております。

同専門校からの依頼を受けて、本学のエネルギーセンター内にあるボイラー設備・自家発電設備・受水槽設備・特高変電室や新町水源地にある井戸設備とその設備を監視するコントロール室など大学や病院の運営に欠かせない本学特有の巨大施設の見学をしていただきました。

当日は、新キャンパス・施設マネジメント課の職員が本学の設備の概要や管理について説明すると、訓練生からは、真剣な眼差しで質問もありました。

訓練生にとってこの経験が、就業に役立ち今後の新しい船出になればと願います。



説明の様子

8.22  
8.24

## 令和4年度コンソーシアム実習(奈良医大・早大連携講座)を開催しました

本実習は早稲田大学との連携協定の締結を契機に平成22年度から開始し、今回で12回目の開催となります。今年度は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、Zoomを用いた遠隔授業で8月22日から24日の3日間で開催しました。

今年度は「医工学と医学(先端ロボティクスと医療)」をテーマに開催し、消化器・総合外科学の庄教授に「消化器外科における外科治療の進歩と課題：ロボット支援手術を中心として」、スポーツ医学の小川准教授に「膝の解剖とバイオメカニクス」についてご講義いただき、最先端の医学と工学の関わりについて学びました。

早稲田大学からは、大島教授を中心に、医工学に関わる最先端の研究施設の紹介や、工学、経営学の分野からの医学へのアプローチ等について授業していただきました。

また、最終日にはこれまでの授業を踏まえ、本学学生と早稲田大学の学生間でのグループワークを実施し、将来的な医学と工学の可能性をテーマにグループごとに発表しました。医学の分野だけではなく研究開発やマーケティング等、普段の授業では触れる機会の少ない議論も展開され、本学学生にとっても視野が広がる有意義な機会になりました。

8.24

## MBT 在宅医療の基調講演と鼎談を開催しました

超高齢社会にともない在宅医療の増加が予想されることから、MBTでは、連携企業や本学関係者と在宅医療に関する意見交換、社会ニーズの調査等を行い、超高齢社会への貢献事業を模索しています。その一環として、8月24日、在宅医療ケアの第一線で活躍されている3人の講師をお招きして、講演と鼎談を通して、在宅医療ケア現場の現状と課題、将来展望を聴く催しを現地とWEB配信のハイブリットで開催しました。基調講演では在宅ケア移行支援研究所の宇都宮宏子氏にご講演いただき、鼎談では本学小竹久実子在宅看護学教授進行のもと、宇陀地域医療・介護連携ネットワーク運営協議会代表理事の加藤久和氏、秋津鴻池病院看護部長の野村佳香氏にご参加いただき、現場での取組や課題をそれぞれご紹介いただきました。

本講演の内容は右記の二次元バーコードから視聴できます。



基調講演

8.30

## 『MBT うめきた映画劇場』の企画検討を行いました

MBT 研究所では、難病への理解を深め、難病に携わる人々や組織を支援することを目的として開催した『MBT 映画祭 2021』のフォローアップ活動の1つとして、各地でMBT映画祭入賞作品の上映会を開催しています。

今回は、大阪・梅田のうめきた外庭 SQUARE で開催する『MBT うめきた映画劇場』に向け、詳細な情報共有が行われました。往来的ある屋外会場での上映会をはじめでの試みとなることから、会場の立地特徴に合わせた企画も進行しています。

難病についての理解を深めながら映像作品を楽しんでいただける機会とできるよう、開催に向け引き続き準備を重ねてまいります。



企画検討の議論

8.31

## 奈良臨床漢方医学セミナー (総合診療領域編)を開催しました

大和漢方医学薬学センターでは漢方診療の普及啓発活動の一環として、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを開催しています。

総合医療学講座 西尾教授座長のもと、総合診療科 田口浩之先生の症例報告から始まり、その後、飯塚病院東洋医学センター漢方診療科診療部長 吉永亮先生の「明日から実践一痛みに対する漢方治療」と題した特別講演に続きました。

吉永先生の講義では、慢性疼痛に関する治打撲一方の活用のコツとして症状によって他の種類をプラスすることで効果があると、症例をあげながらの講演でとてもわかりやすく楽しく聞くことができました。

今後も漢方に関するセミナーを予定しております。一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。



講演を行う吉永先生 座長を務める西尾教授 報告を行う田口先生

9.1

## 社会医学研究会の学習支援活動が 学術論文として受理されました

医学科5年 山崎 次郎

社会医学研究会は医療の社会的な側面についてボランティアなどを通して考える部活です。今回、長期入院中の高校生に対する学習支援活動に関して紹介します。長期入院する高校生は病気に対する不安以外に、勉強の遅れ、友人や家族と会えないこと、同級生と一緒に進級・卒業ができないこと、将来への不安など様々な悩みを抱えています。せめて学業の不安を軽減できればと本活動を開始・継続し、活動実績が学術論文として受理されました(日本小児血液・がん学会雑誌59-5号掲載予定)。現部員だけでなく、OB/OGの先輩方、患者さんと我々を仲介いただいた小児科スタッフの方々との活動が評価いただきました。今後も様々な活動に邁進していければと思います。



社会医学研究会のメンバーと嶋医学部長

9.9

## アルミ製車椅子30台を 寄贈いただきました

山本商事株式会社様より車椅子30台を寄贈いただき、令和4年9月9日に寄贈式を執り行いました。山本譲二社長から平成23年当時お母様が当院に入院されていたこと等、車椅子を寄贈するに至った経緯をご説明いただくとともに「患者さんご自身の移動はもとより、医療従事者が患者さんを移送する際にも活用いただき負担を軽減することで、院内環境の向上に役立ててほしい。」とお言葉を頂戴しました。その後、吉川病院長が感謝状を贈呈し、ご厚志に謝意を述べられました。

これまでシャンプーチェアや車椅子計92台を寄贈いただいております。現在も病棟や外来で活用させていただいております。今回寄贈いただきました車椅子も大切に使用させていただきます。



寄贈式

9.15

## 第75回解剖慰霊祭が 執り行われました

令和4年9月15日(木)午後2時からTHE KASHIHARAにおいて、第75回解剖慰霊祭が執り行われました。

昨年と一昨年は新型コロナウイルス感染症拡大により開催を中止または規模を縮小しての開催となりましたが、今年は3年ぶりにご遺族も会場に出席いただく形で開催することができました。

今年は新たに、系統解剖36柱、病理解剖15柱の計51柱の御霊を加えて、6,808柱の御霊をお祀りさせていただきました。黙祷の後、学長の祭文奉読、医学科2年生総代の吉田彪晟さんの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医学の発展と医学教育のために自らの御体を捧げてくださった方々の崇高なるご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



細井学長による挨拶

9.5  
~  
9.9

## 医学看護学合同教育科目「次世代医療人育成論」を開講しました

9月5日(月)～9日(金)に次世代医療人育成論を開講しました。本科目は、医学科1年生と看護学科1年生を対象とした医看合同科目であり、良き医療人育成プログラムの一つに位置づけられています。

医師や看護師により深く求められる「Professionalism」を1年次から認識することを目的に、「知的生産技術」、「コミュニケーション」及び「人権教育」の3つをテーマに授業を実施しました。「知的生産技術」では、特にチーム医療を担う医療人として求められる批判的思考力(クリティカル・シンキング)について、演習を通じて、体験的にその重要性や必要性を自ら気づく授業を行いました。

次に、「コミュニケーション」では、医療人として必要な他者との協働関係を結ぶためのコミュニケーション力を、理論から実践方法まで段階的に学べるように授業を配置し、実践的な授業を行いました。



発表会の最優秀班

また、医療者と患者コミュニケーションの基本姿勢と視点を身につけることを目的として、障がいを持った患者さんから直接話を聞きました。

最後に、「人権教育」では、奈良県が実施している男女共同参画推進のための取り組みや障がい者・性的マイノリティ者に対する偏見や差別、人権侵害をなくし、共に生きる社会を実現する態度を学びました。

最終日には、4日間の授業を通じて得たことを「コミュニケーション能力」と「共生社会」の2つをテーマにグループワークを行い、その成果を発表しました。学生の質疑応答だけでなく、司会を務めた先生からも実体験を基にコメントをいただき、活発な発表会となりました。発表会後は、各班が投票を行い、最優秀班には表彰を行いました。

5日間の授業を終わっての学生の感想には、「医療は1人で行うものではなく、チームで行う必要があるため、コミュニケーション能力を養う必要がある」、「当事者の話を直接聞くことができ、共生社会を実感できた」、「1週間のまとめをグループワークと発表会で行う機会があり、理解をより深められた」等があり、医師・看護師を目指す学生にとって、有意義な時間となりました。



## 9.10 MBT ウエルシア薬局 健康ステーションを開催しました

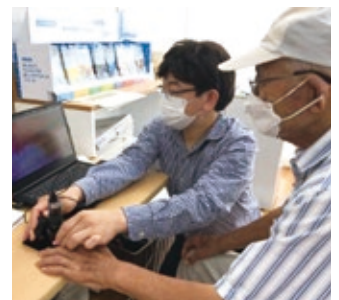
ウエルシア薬局 橿原市中曾司店「ウエルカフェ」にて本学MBT 研究所が健康ステーションを開催しました。(隔月第二土曜日)

梅田副所長とスタッフが様々な機器でカラダ・肌の状態などを測定し、地域住民の方に健康とまちづくりをテーマとして、日頃から健康づくりを意識し自分らしく健康的な生活できるようにアドバイスをしました。予約制で17名の参加者からは、自分の健康状態がわかり生活改善を意識するようになったと大変好評でした。

今回は、東洋紡の筋電ゲーム(センサ入サポーターを両手に装着して、ダンベルをあげるような動作をした際に運動指令と

して流れる筋電(キンデン)をアクションのスイッチとしたゲーム)などを活用し、楽しく参加していただくことができました。実際に運動した感覚も得られるため、運動を音やゲームによって誘導するものやゲーム性を持ったリハビリや介護施設などでの商品としても広がり期待されます。

お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



毛細血管を測定する梅田副所長

9.13

## 看護学科教授会で、 ハラスメント防止研修を実施

これまでも教授会の場において、ハラスメント防止研修を開催しておりますが、今年度は9月13日(火)、協定校である同志社女子大学特別任用教授の岡山寧子<sup>やすこ</sup>先生を講師にお招きし、職場で起こりやすいハラスメント事例や管理職として注意すべき点について、ご自身のご経験も踏まえて解説していただきました。

教授職としての教室運営や学生とのかかわり方の難しさ、そして自ら範を示すべき立場へのエールも込めて、看護学科に特化した具体的な内容で解決の糸口をお話しいただきました。



熱心に受講しました

9.16

## 実験動物慰霊祭を執り行いました

実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すため、実験動物慰霊祭を執り行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止対策をとりながら、3年ぶりに参加者をお招きして開催しました。

私たち医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。代替的手段がなく、やむをえず動物実験を行うときは、動物愛護の観点から、動物への苦痛を軽減し、さらに犠牲になる動物数の削減に努める必要があります。そして、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元していくことが私たちの責務です。



慰霊祭の様子

9.17

## 第3回MBT難病克服支援 WEBセミナーを開催しました

本学では、稀少な疾患ゆえに社会から放置されがちな難病患者や関係者の苦境を多くの人に理解していただくことを目的としたMBT難病克服キャンペーンの活動の一つとして本セミナーを企画し、定期的に開催しています。

第3回目となる今回は、本学脳神経内科学杉江和馬教授司会のもと、国立精神・神経医療研究センター病院長の阿部康二先生、おおさか映画学校代表の西尾孔志監督からご講演をいただきました。

第1部として阿部先生から『神経難病の新しい治療』と題して、脊髄性小脳萎縮症、パーキンソン病等への幹細胞治療法や、iPS細胞を使った治療薬の研究開発、また神経難病に有効なサプリメント等の研究開発内容等をご紹介いただきました。

また第2部では西尾監督から『映画は難病をどう描いてきたか』と題し、これまで発表されてきた難病等に関する映画を分類分けしてご紹介いただき、最後にMBT映画祭の意義を唱えられました。

今回のご講演は、多くの方々に難病やそれに向き合う人々への理解を深めていただく一助となったと考えます。



阿部康二先生

西尾孔志監督

10.1

## 『MBT うめきた映画劇場』を実施しました

奈良医大とMBTコンソーシアムが主催し、読売新聞社の協力の下で、10月1日(土)の夕方から、うめきた2期開発区域に隣接する屋外の芝生広場「うめきた外庭 SQUARE」で「MBT うめきた映画劇場」を開催しました。会場には、100人超が集まり、昨年度のMBT映画祭での受賞作5作品を通して、難病等のいのちの大切さを一緒に考えるひと時となりました。合間の特別講演では、本学整形外科の重松講師より、参加者にも身近な腰痛をテーマにお話しいただきました。講演では、腰痛のセルフチェックの方法と原因の紹介、更には癌、感染、骨折でも腰痛になることも紹介し、参加者は熱心に聞き入っている様子でした。

繁華街大阪梅田での開催ということもあってか、若年層が興味を示して当日参加する光景もあり、MBT活動が広く知られる機会となったのではないかと思います。



細井理事長の開会挨拶



重松先生の特別講演

## Winner Report

## 6.2 日本皮膚科学会皮膚医学研究基金を受賞しました

皮膚科学 准教授 新熊 悟

この度、「X染色体の不活性化機構を応用した細胞競合モデルマウスの作製」に関する研究に対して、日本皮膚科学会皮膚医学研究基金（ロート製薬寄付）を受賞いたしました。日本皮膚科学会皮膚医学研究基金は皮膚医学の発展に顕著な貢献が期待できる基礎的研究を助成振興することを目的として創設された賞です。今回の受賞を励みとして、今後も臨床および研究に邁進していく所存です。この賞を受賞するにあたり、ご指導いただきました浅田教授をはじめ、皮膚科学教室や関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



## 6.19 第146回近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会で優秀演題賞を受賞しました

産婦人科学 診療助教 前花 知果

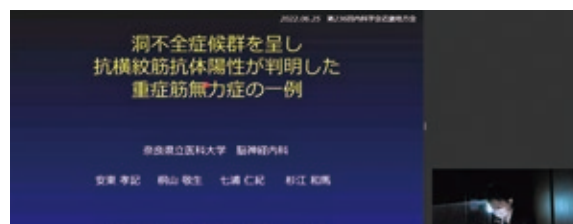
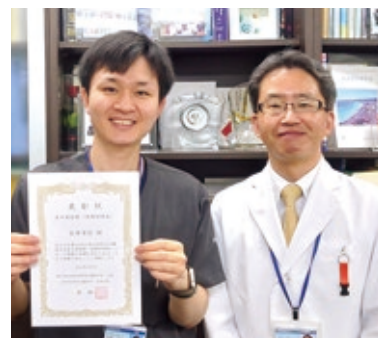
令和4年6月18日、19日に開催された、第146回近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会において、「新規卵巣癌マーカーTFPI2の有用性の検討」の口頭発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。今回の発表にあたりご指導いただきました、木村教授、川口准教授、山田先生をはじめ、発表に際してご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。今回の経験を糧に、今後も日々精進して参ります。



## 6.25 第236回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞（優秀演題賞）を受賞しました

脳神経内科学 後期研修医 安東 孝記

2022年6月25日、神戸国際会議場でのハイブリッド開催となった第236回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション（口演発表）で、本学脳神経内科学講座の安東孝記後期研修医が、演題「洞不全症候群を呈し、抗横紋筋抗体陽性が判明した重症筋無力症の1例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。重症筋無力症における抗横紋筋抗体の病態への関与と治療介入を考慮する上で貴重な症例報告でした。今後の脳神経内科の診療・研究の大きな励みとなり、さらなる飛躍を期待しています。



## 6.30 Neuro2022で若手道場優秀発表賞を受賞しました

精神医学 助教 小森 崇史

この度、2022年6月30日～7月3日に開催されたNeuro2022（第45回日本神経学会大会 / 第65回日本神経化学学会大会 / 第32回日本神経回路学会大会 合同大会）の若手道場において、演題「マイクログリア由来BDNFの過剰発現は発達期の社会脳形成を妨げる」を発表し優秀発表賞を受賞いたしました。マウスを用いた基礎研究から得られた結果で、マイクログリアは発達期における社会性形成に関与しており、幼少期のネグレクト体験が社会性に影響を与える機序の一つである可能性を報告しました。今回の受賞を励みに、今後も精神疾患の病態解明に貢献できるよう努力を続けていく所存です。この場をお借りして、ご指導いただきました諸先生方に感謝申し上げます。

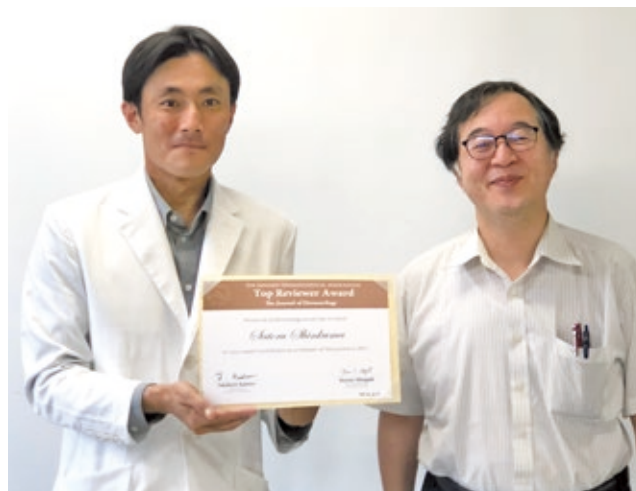




## 7.1 「The Journal of Dermatology」において Top Reviewer Award を受賞しました

皮膚科学 准教授 新熊 悟

この度、WILEY 出版の英文雑誌「The Journal of Dermatology」におきまして、Top Reviewer Award を受賞いたしました。この雑誌は日本皮膚科学会が主となり発行している雑誌で、日本の皮膚科医のみならず世界中の皮膚科領域の研究者および臨床医の論文が多数掲載されています。査読をさせて頂く機会を与えていただきました Editor-in-Chief 門野岳史教授をはじめ、Editor の方々に感謝申し上げます。



## 7.9 分子病理学研究会で優秀ポスター賞を受賞しました

分子病理学 講師 谷 里奈

2022年7月8～9日に金沢市で開催された第39回分子病理学研究会で、優秀ポスター賞一般の部第二位に選ばれました。受賞した発表は「がん性筋悪液質におけるミトコンドリア品質管理と分化障害の検討」というもので、癌細胞に由来する DAMP などに起因する心筋ミトコンドリアの機能障害がエネルギー代謝の低下をもたらし、がん悪液質に合併する心筋障害の発症に重要な役割を果たすことを示しました。ご指導下さった國安弘基教授ほか多くの先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。



分子病理学 助教 森 汐莉

2022年7月8～9日に金沢市で開催された第39回分子病理学研究会で、優秀ポスター賞一般の部第一位に選ばれました。受賞した発表は「ミトコンドリアに関連したがん性悪液質の機序解明」というもので、化学療法に伴って生じる癌細胞におけるミトコンドリアの障害が、サイトカイン反応を介して宿主のがん悪液質を惹起する機序を示しています。ご指導いただいた國安弘基教授ほか多くの先生方に心からお礼を申し上げます。



医学科6年(研究医養成コース)  
佐々木 里歌

第39回分子病理学研究会で、優秀ポスター賞学生の部第一位に選ばれました。受賞した発表は「酸化型 HMGB1 による間葉系幹細胞からのミトコンドリア移行は大腸癌細胞の薬剤耐性をもたらす」というもので、間葉系幹細胞から癌細胞へのミトコンドリア移行が癌の悪性を亢進させ、癌の進展に重要な役割を果たしていることを示しました。分子病理学教室の國安弘基教授をはじめ、多くの先生方の懇切なご指導のおかげでこの賞を受賞することが出来ました。心から感謝申し上げます。



# Winner Report

7.1

## 日本神経化学学会奨励賞を受賞しました

精神医学 学内講師 山室 和彦

この度、Nature Neuroscienceに掲載された「A prefrontal-paraventricular thalamus circuit requires juvenile social experience to regulate adult sociability in mice」を評価して頂き、日本神経化学学会 奨励賞を受賞することができました。これは幼少期逆境体験（幼少期社会隔離マウス）が前頭前野-視床室傍核回路に影響を与えることをオプトジェネティクスやDREADD、ファイバーフォトメトリー、ホールセルパッチクランプ法などの技術を駆使し検証したのになります。また同神経回路をオプトジェネティクスによる活性化で、幼少期隔離マウスでみられる社会性の障害を改善し、その効果が持続したことが何より評価をいただいたポイントだと思っております。この論文はマウントサイナイ医科大学に留学中での仕事であり、留学先のラボのPIである森下先生に感謝申し上げます。また、精神科の諸先輩方が臨床研究だけでなく基礎研究にも力をいれ、業績を蓄積してきたからこそであると思えます。この場をお借りして皆様に深く御礼申し上げます。また、これを励みに今後も研究に精進して参りたいと思えます。



### 学報編集委員会からのお知らせ

#### 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



7.16

## 第26回日本神経麻酔集中治療学会において最優秀演題賞を受賞しました

麻酔科学 講師 林 浩伸

2022年7月15～16日に開催された第26回日本神経麻酔集中治療学会で一般演題において「直腸癌手術における尿道括約筋から記録する運動誘発電位モニタリング」のタイトルで最優秀演題賞を受賞しました。内容は、特許申請中の電極付き尿道カテーテルを使って術中排尿機能モニタリングをすることで術後排尿障害を回避しようという新しい試みについてです。日頃の忙しい臨床業務の中でも川口教授をはじめとする麻酔科医、外科医、モニタリング技師皆様のご協力のおかげで受賞できました。本研究はまだ進行中なので引き続きご支援くださいますようお願いいたします。



9.1

## 米国ベストドクターズ社より、医師同士の評価によって選ばれる「The Best Doctors in Japan 2022-2023」に選出されました

小児センター 病院教授 朴 永銖（脳神経外科学 准教授）

この度、The Best Doctors in Japan 2022-2023に選出されました。

私が取り組んできた、小児分野の脳神経外科診療が高く評価されたものと考え、大変光栄に存じます。

当院は、奈良県下における唯一の小児脳神経外科の診療施設です。小児脳腫瘍や先天奇形をはじめ、ありとあらゆる疾患に対して最新の知識と多くの経験、洗練された高い手術技術が求められます。

小児神経外科医には、病気に苦しむ患児や家族に対する深い愛情が必須であると考えており、強い責任感と怯まぬ情熱を持って、奈良県下の全ての子供たちに笑顔が戻るように、引き続き努力して参ります。



# 未来への飛躍基金だより

## 紺綬褒章伝達式を執り行いました



本学の未来への飛躍基金にご寄附をいただきました原田大亮氏（前列左）、松本恒和氏（前列右）に対し、紺綬褒章が授与されました。令和4年8月15日に本学において紺綬褒章伝達式を執り行い、細井理事長・学長から褒状および褒章を伝達するとともに、寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。

**紺綬褒章のご案内** 本学は、内閣府賞勲局から紺綬褒章「公益団体」として認定を受けています。基金に500万円以上のご寄附を頂いた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附を頂いた団体は、紺綬褒章の授与の対象となります。授与申請については本学の取扱基準に基づいて行いますので、詳しくは総務広報課（内線2803）までお問合せください。

The donation person name

## 寄附者ご芳名

### 「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力を頂き、心から御礼申し上げます。この基金は、奈良県立医科大学に従事する現役の教職員、卒業された諸先輩方、そして保護者の皆様、県民や全国の皆様から寄せられた寄附金によるものです。皆様から頂いたご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備、大学と社会とのつながりへの支援等、幅広く活用させて頂いております。

基金創設以来、令和4年9月末で累計3,810件のご寄附をいただいております。なお、今号では、令和4年7月～令和4年9月にご寄附いただいた方のご芳名を掲載しております。

#### 【個人】

##### ◆100万円以上

掲載を希望されないご寄附者様 1名

##### ◆30万円以上100万円未満

笠原 正登 様 鈴木 秀夫 様 鄭 致元 様  
中垣 滋央 様 中林 仁美 様 畠山 金太 様  
細井 裕司 様

掲載を希望されないご寄附者様 2名

##### ◆10万円以上30万円未満

金森 正明 様 築村 佳典 様 中谷 勝紀 様  
成瀬 光男 様 坂野 公彦 様

掲載を希望されないご寄附者様 4名

##### ◆10万円未満

池端 雅美 様 浜崎 直樹 様  
掲載を希望されないご寄附者様 8名

##### ◆金額の公表を希望されないご寄附者様

川上あずさ 様 齋藤 昌宏 様 福住 明夫 様  
松本 雅則 様

奈良県立医科大学 総務広報課

TEL : 0744-22-3051 (内線 : 2803) E-mail : hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

未来への飛躍基金 HP : <https://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/> または「未来への飛躍基金」で検索！



## 令和5年度 入試日程【医学部】

大学入学共通テスト実施日 令和5年1月14日(土)・15日(日)

学 科	入試区分	募集定員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表(予定)
医 学 科	推 薦*1	38	令和4年12月14日(水)～12月16日(金)	令和5年2月4日(土)・2月5日(日)	令和5年2月14日(火)
	前 期	22	令和5年1月23日(月)～2月3日(金)	令和5年2月25日(土)・2月26日(日)	令和5年3月7日(火)
	後 期	53		令和5年3月12日(日)・3月13日(月)	令和5年3月22日(水)
看護学科	推 薦*2	35	令和4年11月1日(火)～11月2日(水)	令和4年11月20日(日)	令和4年12月13日(火)
	前 期*3	50	令和5年1月23日(月)～2月3日(金)	令和5年2月25日(土)・2月26日(日)	令和5年3月7日(火)
	後 期		実施しません		

\*1 医学科学校推薦型選抜は緊急医師確保特別入学試験13名と地域枠入学試験25名を募集します。

\*2 看護学科学校推薦型選抜は地域枠のみ募集します。

\*3 看護学科一般選抜(前期日程)は、一般枠40名と地域枠10名を募集します。

詳しくはホームページで確認してください (<https://www.narmed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)

看護学科学校推薦型選抜学生募集要項は9月下旬から配布中です。医学科学校推薦型選抜学生募集要項は11月中旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

## Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2022年 6月18日	読売新聞	整形外科学 教 授 田中 康仁	「からだの質問箱」 アキレス腱手術後の痛みについて
8月19日	ABCラジオ 朝も早よから桂紗綾です	産婦人科学 准 教 授 川口 龍二	子宮頸癌について
8月19日	奈良テレビ ゆうドキッ!	感染症センター 学 内 講 師 今北菜津子 感染症センター 助 教 奥田 菜緒 C棟8階 看 護 師 長 堀 令子 C棟8階 看 護 師 畑田 志穂	「できない」ではなく「何ができるか」 新型コロナ第7波の大学病院
8月20日	毎日新聞	公衆衛生学 准 教 授 野田 龍也	死亡率、後遺症…新型コロナは季節性インフルと比べて脅威なのか
8月23日	CareNet.com	公衆衛生学 准 教 授 野田 龍也	新型コロナvs.季節性インフル、年齢別死亡リスクを比較/奈良医大
8月25日	NHK奈良	感染症センター 教 授 笠原 敬	全数把握見直しに 奈良県立医大感染症センター笠原教授は
9月12日	メディカ出版 INFECTION CONTROL 2022年10月号	感染管理室 契約専門職員 松村 佳美	ほかの施設はどうしてる?“いつ・誰が・どのよう に”本当に使えるICTのための活動手引書
9月30日	読売中高生新聞	公衆衛生学 教 授 今村 知明	岸田政権 識者が採点 コロナ対策80点

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

### 編集後記

朝晩の冷え込みが厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

皆様のご協力により第82号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝いたします。

学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています。記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。

